

法話概略【同じ1つのものを見つけて尊ぶ感性を】

先日、イスラム教信者のパキスタン人の方とお話しする機会に恵まれました。彼は、世界で報道されているイスラム教のイメージが大変悪いものが多い事を残念だと話していました。報道はほんの一部の行動であり、元来イスラム教信者の多くは、邪悪な戦争など起こすようなマインドコントロールはされておらず、逆に、相手を尊ぶ教えを受けているのがほとんどなのだそうです。

彼はこうもおっしゃいました。

『イスラム教の根本の教えの中には、
「違うものに目を向けるのではなく、同じ1つのものを見つけて一緒に
になりなさい」

という言葉があります。みんな一人一人が考え方や性格など違うのがあたり前です。自分と違うからと排除しようとして争いが起こります。違いに目を奪われることなく、たった一つでいいから同じものを見つけて尊ぶこと。この精神があれば争いは起きないはずなんです。』



目をキラキラさせて話す彼の熱心な言葉に、私自身の日常もそうありたいと思わせてもらった時間でありました（恥ずかしながら、違いをブーブー言ってる日常の私です…汗）。お互いに、尊ぶ
会えるものを見つけていける、そんな光寿会でありたいと思います。よろしくお願い致します。

その他連絡事項

① 町内でもコロナ感染情報が方々で出てきており、他の事業所からも複数の感染者の報告文書もきております。その中にはありますが、光寿会としましては、『お年寄りの対面会・外出』については、感染対策に十分に配慮しながら「継続」をしていきます。

職員の行動制限も厳格には致しませんが、感染対策の意識を持った行動は個々に心掛けて頂きたいと思っております。また、周囲の感染状況を含めた心配なケースや体調不良等ある場合は、早め早めにご連絡とご相談をお願い致します。

② ここ最近、光寿会のお年寄りのご家族やご親類がご逝去されるケースが続いておりますが、ご家族の意向等もあり、中々ご本人に本当のことが伝えられないまま時間が経過している状況があります。ご家族の気持ちとしては、「本人がショックを受けて弱ってしまうんじゃないか…悲しんでいる姿をみるのも不憫だから…」というものがあるようです。

光寿会としては、「事実は時期を見て伝えるべき」というのが基本の考え方です。なぜなら、自分の大切な人の一大事を何も知らされないまま過ごす事のほうがよっぽど悲しいことであり、事実を知って悲しみ落ち込むことは当然、大切な人だからこそその心情と考えているからです。いつ、誰が、どう伝えるか？という事は個別にしっかり配慮しながらになりますが、統一の考え方としては、以下の通りです。

⇒ 身元引受人またはそれに近い方からお伝え頂く事

⇒ 職員から不用意に伝えない事

〔万が一、新聞等でお年寄りが情報を得た場合、聴かれた職員は上司にご相談ください。〕

③ 職員の年次休暇については、年間5日間取得できるよう勤めて参りました。中々取得の難しい職種も実在しておりますが、全職員が自らのリフレッシュのために「3日」は取得できるようにはたらきかけていきたいと思います。例えば、その日の一日として誕生日は優先取得できる等、ルール化も良いかと思っております。

【光寿会理事長】